第３１２回　令和８年１０月２０日（火）

「給料だけではできません」

　仕事というものは労働に対して報酬が支払われて成り立つものです。それが大原則なのですが実際は同じ給料であっても仕事の質には違いがあります。

　良く目にするコンビニの店員さんや、バスの運転手さんなどもみなさん同じではありません。人によって「感じが良かった」、「親切だった」など印象が違います。
　感じを良くしてもしなくてももらえる給料は同じかもしれません。どうしてそのような違いが出るのでしょうか。

　答えは自分の仕事に使命感を持っているかどうかだと思います。仕事をしている意味は「誰かの役に立ちたい」ということが最優先に来るべきだと考えています。給料のその先の違いはここから生まれてくるのだと思います。

　学校でも先生のほかに色々な人が働いていますよね。真夏の暑い中でも雑草を刈り取ってくれている人は誰ですか？学割や事務手続きでお昼休みの時間帯でも優しく丁寧に対応してくれるのはどんな人ですか？廊下の机やショーケースがいつもきれいなのは誰かが拭いてくれているからです。誰が拭いているのかわかりますか？

　このような方々がみなさんから「ありがとうございます」と言ってもらえる機会はあまりないと思います。それでも一生懸命やってくれるのは報酬のためだけではなくて「みなさんに心地良い学校生活を送ってほしい」からだと思います。

　これが使命感だと思います。本当に尊いことだと感じています。

　そのようなことを考えながら外を歩いてみるといろいろな発見があるかもしれません。何気なく見ていたゴミ捨て場が汚れていなかったり、道端の雑草が少なかったり、緑道の枯れ葉が無かったり。これは一人で勝手にきれいになっているわけではないと思います。

　都会のビルの中はものすごくきれいに清掃されています。廊下もトイレもピカピカですよね。でも案外すぐそばの路地がものすごく汚かったりします。都会は建物と比べて対象的な場所が結構あります。

　皆さんが暮らしているような街中はどこもきれいなことが多いと感じます。それにはきっと「ありがとう」を言われることなく他人のために汗をかいている人がいるのだと思います。それが「ありがたい」ことだと思うことが大切です。